宮崎大学発 都農町かわら版

令和8年8月号

宮大が都農町寄附講座等で行っている活動や情報を、定期的にお知らせします！

寄附講座とは、教育研究の進展及び充実を図ることを目的として、大学や研究機関などに対し寄附を行い講座を設置する制度です。町として単独での寄附講座の開設は全国的にも珍しく、宮崎県内では初めての取り組みです。

地域学部

地域学基礎の地域資源マップが完成

5月に町歩きをした1年生19班の地域資源マップが完成し、最終授業にて、クラス内投票による表彰発表がありました。最優秀賞は1班（寺迫近辺）、優秀賞は10班（岩山近辺）、9班（下浜近辺）が獲得しました。それぞれに工夫を凝らした地区のマップが今年も出来上がりました。ご自分の地区や町内の訪れたことのない地区などの地図を見ると、町の新たな発見があるかもしれません。優秀作品も含めぜひご覧ください。　今年度の19マップを掲載したページはこちら↓

授業後の学生アンケートでは、歩いてみて初めてわかった都農町の人の温かさや魅力への感動、フィールドワークの楽しさや大切さを実感したとの感想が寄せられました。

8/18･19･20　中学校サマースクール数学塾
宮大教育学部数学科の学生8名が講師をしました。

3年目の取組みとなる中学校の夏休み数学塾での教育学部学生講師アルバイトの連携で、今年は数学科の1年生と4年生が各日5～7名で参加しました。9月初めにある学力テスト（数学）の過去問題を毎日1年度分ずつテストし、その後に学生が解説しながら教えました。中学生27名が3～5名のグループに分かれて、少人数で教わるスタイルです。

昨年に比べ参加する中学生が増え、学生は教え方に難しさを感じながらも、来年から教員になる4年生は臨場感のある現場経験にやりがいを感じていました。

教える側も事前の準備を真剣に取り組み、いかにわかりやすく説明するか、話し合いながら皆で考えていました。また、「難しかった」と言いながら、「3日間で〇〇点上がった～」と喜ぶ生徒の笑顔も見られました。9月の本番、ぜひ頑張ってほしいです！

連携の機会を頂き、様々調整くださった教育委員会にお礼申し上げます。

7/25　PBL1「宮大生と遊ぼう！お楽しみ会」

今年度PBL1年生にとっての初イベントとなる恒例の夏のお楽しみ会を都農ふれあいの居場所（南新町、以下居場所）で開催しました。前期の授業の中で担当班に分かれ、企画、物品調達、チラシ作成、当日の運営までを主体的に実践する初めての体験です。居場所の青木ご夫妻との準備期間のやり取りをはじめ、地域の方々にお世話になりながら、子どもたちを楽しませるために学生は一生懸命でした。

竹割りから始めた流しそうめん、和紙での灯篭づくり、割りばし鉄砲づくりと射的など、今年の1年生ならではの特色ある企画が多くありました。計画通りにいかず反省もありましたが充実した時間でした。

暑い中ご参加くださった皆様、子どもたち、ありがとうございました。

医学部

7/16、8/20つのまるケアミーティング

7月は延岡市の吉田病院から公認心理士の山中様にお越しいただいて「依存症と地域連携」について学びました。アルコールやギャンブルなどの依存症は個人の問題ととらえられがちですが、本人の意思や性格の問題ではなく、適切な治療や継続的な支援によって回復が期待できる病気であるといいます。過去のつらい経験やストレスが原因であることも多く、改めて医療や福祉の連携の大事さを考えさせられました。

8月は学生さんに医療や福祉の仕事を知ってもらう夏休み特別企画を開催し、中高生11名が参加しました。職種別のブースを各自で回って、医師や看護師・ケアマジャーや役場福祉課などのやりがいや仕事内容の説明を受けました。中高生からは、知らない仕事が多くて参考になったと感想をいただきました。

コラム

つのまるケア講座日常の一コマ by 坂口先生

皆さん、産業医という医師をご存じでしょうか？

産業医は、職場で労働者が健康で安全に働けるよう、医学的な専門立場から助言や指導を行う医師です。常時50人以上の労働者がいる事業所では選任が義務付けられています。病院の医師は病気を診断し治療することが中心ですが、産業医には病院に来る前の「健康な人にアプローチする」予防医学の視点が重要になります。

今回私は、北九州市で行われる産業医学基礎研修会集中講座に参加してきました。6日間で50時間の実技を含める授業を受けることで産業医に認定される、短期集中講座です。内容は非常に興味深く、産業医科大学という日本で唯一、産業医学・産業保健に特化した大学の一流の講師陣から最新の知見も交えた授業を受けることができました。総合診療医としても診療の視野が広がったように感じます。

修了認定書が届いた後には産業医としても業務を行う事が出来ます。楽しみです。大学を卒業して、ここまで長時間授業を受ける機会もなく、最終日は肩こりで酷い頭痛にも悩まされましたが・・（笑）

8/7 夏休み小中学生大学訪問企画 ～宮崎大学に行ってみよう～に17名が参加しました。

恒例の宮大訪問、小中学生と保護者17名が参加いただきました。午前中の教育学部美術科で顔の凹凸を粘土で反転させて自分の顔をつくる体験は「言うは易し行うは難し」で、大人も子どもも試行錯誤で悩みながら作りました。石膏を流し込んで型を外すと、みんな自分の作品に大笑い。「きれいか上手かはアートでは重要ではない、自分の思い通りのものが表現できたかどうかを大切に。」と美術科大野教授から教わりました。また、普段はなかなか入る機会のない階段教室に入ると歓声が上がりました。座って戸ヶ崎学部長のお話を聞き学生体験ができました。 ↓石膏造形体験の様子

農業博物館宇田津館長には「研究は似た物の小さな違いに注目することで新しい発見がある。」と教わり、館内展示を見学しました。

午後の国際交流VR体験では、インドネシア、ミャンマー、台湾、ブラジル、インドの5か国の留学生と、VRを使ってそれぞれの国の観光地などへ行きました。各国の挨拶を覚えて自己紹介をした後、翻訳機ポケトークも使いながら交流しました。

国際連携センターでの集合写真

VR体験の様子

デジタル版

編集・作成：宮崎大学研究・産学地域連携推進機構
発行日：2026年8月26日（原則毎月発行）
発行元：一般財団法人つの未来まちづくり推進機構
問い合わせ: 0983-32-1270（つの未来財団）